

平成27年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立豊郷中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成27年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成27年4月21日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年(国語、算数、理科、質問紙)

4 本校の実施状況

第4学年	国語	128人	算数	128人	理科	128人
第5学年	国語	116人	算数	116人	理科	116人

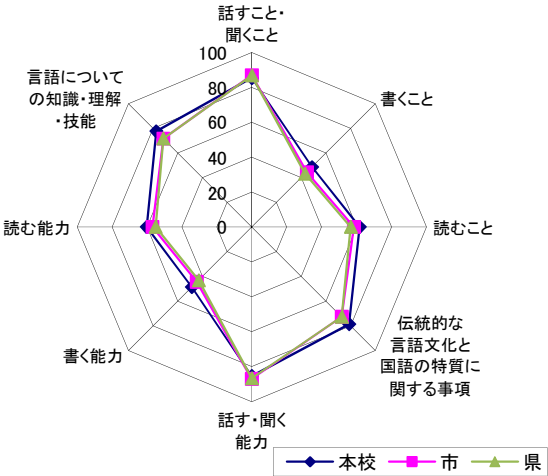
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立豊郷中央小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	85.4	87.0	86.7
	書くこと	48.7	44.5	43.1
	読むこと	61.7	58.5	56.6
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	78.7	72.8	72.8
観点	話す・聞く能力	85.4	87.0	86.7
	書く能力	48.7	44.5	43.1
	読む能力	60.3	57.0	55.1
	言語についての知識・理解・技能	77.5	71.7	71.7



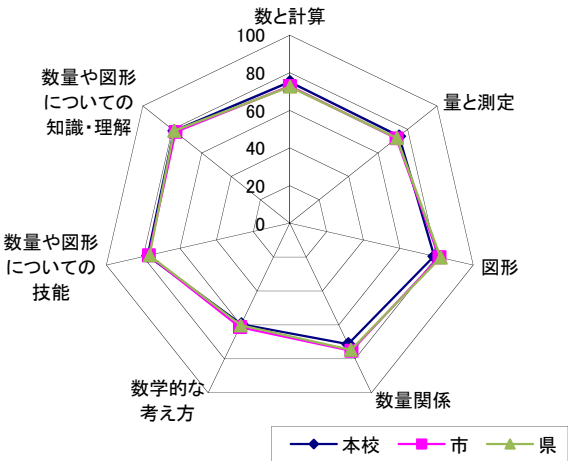
★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	●領域の平均正答率は85.4%で、県平均より1.3ポイント、市平均より1.6ポイント低い。 ●互いの考えの共通点や相違点を整理して聞くことについての設問は80%を下回っており、課題が見られる。 ○話の中心に気を付けて聞くことの設問は91.4%で県平均より2.8ポイント高く、十分に定着していると言える。	・表現力育成については、学校課題でも取り上げ重点的に指導している。今後も朝のスピーチや総合的な学習の時間、ことばの時間等でも表現力の育成に努めていきたい。 ・学級活動における話合いや各教科の中でも、自分の意見を分かりやすく相手に伝える工夫や互いの考えの共通点や相違点を意識して聞く指導を充実させていきたい。
書くこと	○領域の平均正答率は48.7%で、県平均より5.6ポイント、市平均より4.2ポイント高い。 ○報告書の構成を理解する設問は、県や市の平均を大きく上回り、十分に定着していると言える。 ●目的に応じて必要なことを調べる設問では、県や市の平均より高いが、50%を下回り、やや課題がある。	・各教科等の学習で、自分の考えを書く活動を積極的に取り入れて、日常的に書くことへの抵抗感をなくす工夫をしていく。 ・学校図書館等を活用し、様々な教育活動を通して、目的に応じて必要なことを調べる機会を設けていきたい。
読むこと	○領域の平均正答率は61.7%で、県平均より5.1ポイント、市平均より3.2ポイント高い。 ○文と文のつながりに注意して文章を読むことについての設問や、目的や必要に応じて中心となる語や文をとらえる設問は、県や市の平均を大きく上回り、十分に定着していると言える。	・説明的文章では、目的や必要に応じて文章の内容を読ませるなどして、さらに読む力を高めていきたい。 ・引き続き文学的文章では、叙述を基に登場人物の気持ちを想像して読んだり、場面の移り変わりに気を付けて読んだりできるよう指導していきたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○領域の平均正答率は78.7%で、県や市平均より5.9ポイント高い。 ○前学年や前々学年の配当漢字を読む設問、書く設問の正答率ともに県や市の平均を上回っている。 ●漢字のへんとつくりなどの構成についての理解に関する設問は県平均より8.3ポイント下回っており、課題が見られる。	・朝の学習や家庭学習の課題として反復練習を継続的に取り入れるとともに、定期的に小テストを実施するなど、引き続き定着を図っていく。 ・漢字指導を行う上で、へんやつくりなど漢字の成り立ちや意味にも着目させるなどの工夫をしていく。

宇都宮市立豊郷中央小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	75.1	72.9	72.6
	量と測定	74.2	72.4	72.6
	図形	78.7	81.4	82.1
	数量関係	71.3	75.2	74.6
観点	数学的な考え方	59.5	61.3	60.2
	数量や図形についての技能	77.5	77.0	76.5
	数量や図形についての知識・理解	78.8	77.8	78.8



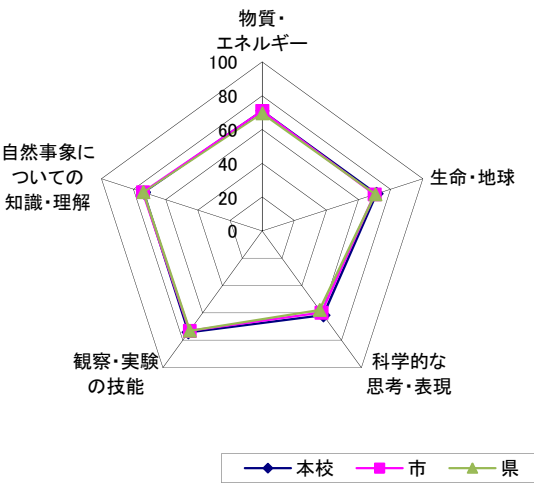
★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○領域の平均正答率は75.1%で、県平均より2.5ポイント、市平均より2.2ポイント高い。 ○分数に関しては、計算の正答率96.1%で、ほとんどの子が理解できている。 ●2位数÷1位数＝1位数(余りあり)の計算は、県や昨年度の平均を下回っており、課題が見られる。	・四則の計算については、県の平均と同等の力となっているので、より力が定着するように、ステップアップ算数等を活用して指導していく。 ・あまりのあるわり算については、繰り返し指導し、習熟を図っていく。
量と測定	○領域の平均正答率は74.2%で、県平均より1.6ポイント、市平均より1.8ポイント高い。 ○ある時刻から一定時間後の時刻を求めることは、県や昨年度の平均よりも上回っている。 ●長さのkmとmの単位の関係を求めることは、県や昨年度の平均を下回っており、課題が見られる。	・長さのkmとmの単位の関係を正しく理解することが課題である。kmをmで表すことを普段の生活の中でも触れることで定着を図るようにする。
図形	●領域の平均正答率は78.7%で、県平均より3.4ポイント、市平均より2.7ポイント低い。 ○正三角形の定義の理解は、県や昨年度の平均よりも上回っている。 ●円の直径についての理解は、県や昨年度の平均を下回っており、課題が見られる。	・円の直径と半径の関係を考える学習では、実物の操作や視聴覚教材の活用、求め方を説明する活動などを行うことにより確実に理解できるようにする。
数量関係	●領域の平均正答率は71.3%で、県平均より3.3ポイント、市平均より3.9ポイント低い。 ○□を使った文章問題を表した図を選ぶことは、県や昨年度の平均よりも上回っている。 ●わり算の文章問題を表した図の理解や文章問題を解くために除法の式を立式し、正しい答えを求める問題は、県や昨年度の平均を下回っており、課題が見られる。	・文章問題を読み、式を立てることを苦手としている児童も見られるため、文章問題を絵や図で表す活動などを設け、意味をしっかりと捉えさせた上で式が立てられるよう指導する。

宇都宮市立豊郷中央小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	71.1	71.1	69.6
	生命・地球	71.1	70.0	70.3
観点	科学的な思考・表現	61.7	59.8	57.8
	観察・実験の技能	74.2	73.2	73.0
	自然事象についての知識・理解	73.7	74.3	74.0



★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	○領域の平均正答率は71.1%で、県平均より1.5ポイント高く、市平均と同じポイントであった。 ○特に、鏡で日光を目的の位置に反射させるための鏡の動かし方の設問の正答率は87.5%で、県や市の平均より約5ポイント高い。光の性質に関する理解の深まりに成果が見られる。 ○特に、豆電球の明かりのつけ方の設問は、正答率が83.6%で、県や市の平均を大きく上回っている。電気の通り道に関する理解に成果が見られる。 ●物は体積が同じでも、種類によって重さが違うことを説明する設問の正答率は37.5%で、県や市の平均より低い。実験結果から、性質を見つけ出したり、まとめたりすることに課題が見られる。	・実験を行う際に、児童に学習問題を十分に理解させ、主体的に実験に取り組ませるようにする。 ・物の体積と質量の関係について、実験をもとに自分の言葉や図を使ってまとめさせ、話し合い活動を取り入れながら、説明する時間を十分に確保する。
生命・地球	○領域の平均正答率は71.1%で、県平均より0.8ポイント、市平均より1.1ポイント高い。 ○特に、影のできる向きから太陽の向きを考える設問の正答率は89.3%で、県や市の平均より約5ポイント高い。太陽と影に関する理解に成果が見られる。 ○特に、太陽を観察するときの道具に関する設問の正答率は、94.5%で県や市の平均を大きく上回っている。太陽を観察する際の技能に成果が見られる。 ●植物の育ち方の順序に関する設問の正答率は38.3%で、県や市の平均より低い。植物の育ち方の知識の定着に課題が見られる。	・植物を畑だけでなく、教室でも育てるなど、継続して観察していける学習環境をつくり、体験的な理解を深めるように努める。 ・体験的な理解と合わせて、ビデオなどの視聴覚教材を活用して、十分な知識の定着を図るように努める。

宇都宮市立豊郷中央小学校 第4学年児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

【4年】

○「学習に対して自分から進んで取り組んでいる」という質問に対して、77%以上の児童が肯定的な回答をしており、市の平均を6ポイント上回っている。また、「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」という質問に対して約81%の児童が肯定的な回答をし、市の平均を6ポイント上回っており、児童は学習に対する興味・関心が高く、前向きな気持ちで取り組んでいると言える。

○「先生は学習のことについてほめてくれる」という質問に対する肯定的な回答は、86%で市の平均より3ポイント高い。また「授業で分からないことがあると先生に聞くことができる」という質問に対する肯定的な回答は、90%で市の平均を14ポイント上回っている。今後も先生に質問しやすい雰囲気作りを続けていきたい。

○「毎朝朝食を食べている」という質問には、98.5%の児童が肯定的な回答をしていて市や県の平均をやや上回っている。また、「家の人と学校のできごとについて話をしている」や「家の人と将来のことについて話すことがある」という質問に対する肯定的な回答も、市や県よりも上回っており、保護者の教育への関心の高さ、児童が親に相談しやすい環境がうかがえる。今後も家庭と学校との連携を密にし、さらに児童の成長のために努めていきたい。

●「家で学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」という質問に対して、肯定的な回答が52%で、市の平均より8ポイント低い。宿題はしっかりやる児童が多いので、今後は宿題だけでなく自分で考えた学習に取り組めるよう自主学習のやり方や進め方についてアドバイスをしたり、自主的に取り組んでいる児童の例を紹介したりして意欲を高めていきたい。

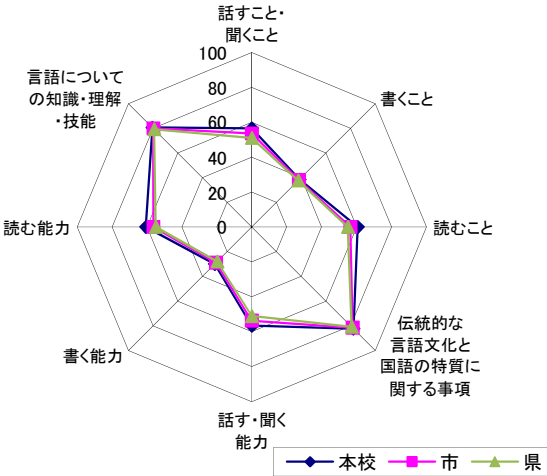
●「1か月に何冊くらい本を読みますか」という質問の平均冊数が、県や市のものに比べ少ない。学校での読書を含めないと勘違いした児童もいるようだ。朝の読書タイムは確保しているが今後も読書意欲を高めるよう国語の発展読書やブックトーク、他教科での調べ学習での図書利用をすすめていきたい。

●「ふだん1日あたりどれくらいの時間テレビゲーム(けいたい式のゲームも含む)をしますか」という質問に対する回答の平均は1時間より少ないという回答で市や県と同じだが、2時間以上すると回答した児童が30%で、市のものより5ポイント高い。ゲームをする時間をきちんと決めて守れるように家庭と連携を図って指導していきたい。

宇都宮市立豊郷中央小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	56.5	53.6	51.0
	書くこと	38.6	38.1	37.6
	読むこと	60.7	56.4	55.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	82.3	81.6	80.9
観点	話す・聞く能力	56.5	53.6	51.0
	書く能力	30.0	29.0	28.0
	読む能力	60.7	56.4	55.0
	言語についての知識・理解・技能	80.6	79.9	79.1



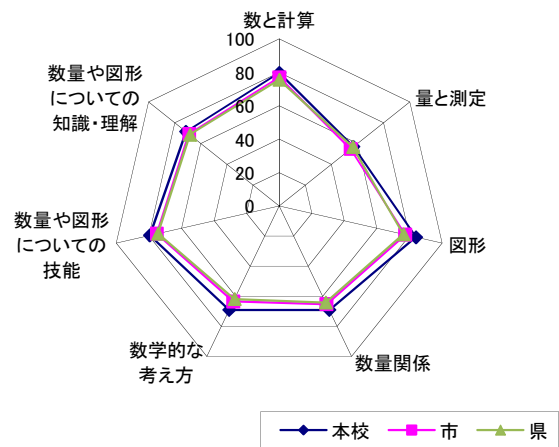
★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○平均正答率は市の平均より2.9%高くなっている。 ○話し合いを進めるうえで、司会者の工夫について答える問題の正答率が57.9%で市平均39.8%を大きく上回っている。 ●二人が話した内容の、共通点を答える問題の正答率が51.8%と低く、市平均52.8%を下回っている。	・話し合い活動では、役割に合った工夫を学ばせるために、一人の児童が司会や話し手、聞き手など様々な経験を出来るように場面を設定していく。意見の違う二人以上の話を聞く際の注意点として、「共通点」と「相違点」を探すということを意識づけしていく。分かり易いメモの取り方を考えさせ、メモをとりながら聞くことに慣れさせていく。
書くこと	●平均正答率は38.6%で市の平均並みであるが、他の領域と比較すると低い正答率である。 ●学級新聞の記事を与えられた条件を守ってテーマに沿いながら書く問題で、条件を守っていないかったり、テーマから外れた内容を書いている回答が目立った。また、最後の問題が作文だったため、無回答も多かった。	・「書くこと」に抵抗感を持たぬよう、普段から児童が書きたくなるようなテーマを与えて作文を書かせる機会を設定する。また「段落数」を決めたり、「たとえば」「だから」などの言葉を必ず用いるなど、条件を守って説明文を要約する学習活動を多く取り入れる。
読むこと	○平均正答率は60.7%で市の平均より4.3%高く、他の領域に比べて大きく上回っている。特に物語文の正答率が高くなっている。 ○物語文で叙述を基に、場面の様子を答える問題は市平均より5%～10%正答率が高かった。 ●説明文を読んで、図を参考にしながら事実の理由を答える問題が34.6%と正答率が低かった。	・説明文の学習では、本文を読んでイメージした図を描いたり、図を使って説明する学習活動を取り入れていく。また、物語と比べると説明文を読書する機会は少ないと思われるので、教科書以外でもノンフィクションの本を紹介するなどして、児童が説明文に触れる機会をたくさん設定する。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○平均正答率は82.3%で市の平均81.6%をわずかに上回っている。 ○第4学年配当漢字を書く問題は、正答率が高い。 ●第3学年配当漢字を書く問題の正答率が、第4学年配当漢字よりも低い。 ●漢字辞典の使い方を回答する問題が、正答率71.1%とやや低かった。	・過去に学習した漢字が定着していないため、既習学年の漢字の復習を定期的 to 実施する。文章を書く際に、既習の漢字は必ず使うことを習慣づける。また、漢字辞典の使い方は忘れていく児童が多いと思われるため、難読漢字を漢字辞典を使って読み方を調べる学習活動を取り入れていく。

宇都宮市立豊郷中央小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	79.7	77.0	75.6
	量と測定	56.8	54.8	56.5
	図形	84.0	77.4	76.3
	数量関係	69.2	65.3	64.3
観点	数学的な考え方	69.1	63.5	61.9
	数量や図形についての技能	79.5	75.2	74.5
	数量や図形についての知識・理解	71.4	69.1	68.4



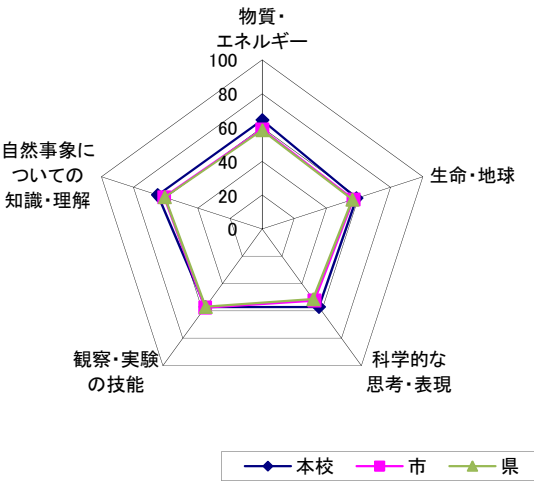
★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○領域の平均正答率は79.7%で、県平均より4.1ポイント、市平均より2.9ポイント高い。 ○帯分数－真分数＝真分数(繰り下がりあり)の同分母の計算の正答率は87.8%と高く、県の正答率(79.4%)と比較しても定着度が高いことが分かる。 ●数と計算の分野は概ね定着しているが、3位数÷2位数＝2位数(余あり、商に空位あり)の計算と、小数の相対的な大きさの理解、概数の表し方では正答率が70%弱で、十分定着しているとは言えない。	・わり算では、わる数が2位数以上になると、商を見積もることが難しいと感じる児童が多いようである。普段の授業から、きりのよい数や10のまとまり、倍数などを意識して数の感覚を付けていく。
量と測定	○領域の平均正答率は56.8%で、県平均より0.3ポイント、市平均より2.0ポイント高い。 ●正方形の面積を求める問題では、校内正答率が68.4%となっており、面積の基礎がやや定着していないと考えられる。 ●面積の㎡とcm²の関係の設問では、校内正答率が43%と低い値を示している。単位の意味や、それぞれの単位の関係性を理解していないと言える。	・面積を求める問題では、基礎的な公式が定着していないことから、もう一度基礎の内容を徹底する。 ・面積の単位と、そのもととなる長さの単位のつながりを確かめながら指導していく。
図形	○領域の平均正答率は84%で、県平均より8.3ポイント、市平均より7.4ポイント高い。 ○立方体の見取り図から、ある辺に平行な辺を求める設問では、校内正答率が、86.3%と高い値を示していて、概ね定着していると考えられる。 ●四角形の対角線の性質を利用する設問では、校内正答率が75.4%で、他の図形の設問の校内正答率よりやや下回る値となった。対角線を正しくとらえることと、その性質の定着が十分でないと考えられる。	・四角形の性質を使った問題はやや定着が不十分なところがある。四角形の性質はいくつかあるために、内容を混同していると考えられる。図形ごとに整理して視覚的な資料も活用しながら指導していきたい。
数量関係	○領域の平均正答率は、69.2%で、県平均より4.9ポイント、市平均より3.9ポイント高い。 ●かっこを用いた四則混合の計算では、校内平均正答率が67.5%で、県平均を4.1ポイント下回っている。このことから、計算順序を正しく理解できていないと考えられる。 ●表やグラフから、伴って変わる二つの数量の関係を読み取る設問では、表に当てはまる数を求めることはほぼできるのに(95.6%)対し、数量の関係を式に表すことについては、67.5%と低い値を示している。数量を表やグラフに表せても、そこから二数の変化を読み取り、式に表現することは定着していないと言える。	・四則混合の計算は、かっこの中を先に計算することは概ね理解しているが、かけ算・わり算とたし算・ひき算がかっこのない状態の式で混合されていると、計算ミスや見落としが多い。四則混合の計算は、先の単元でも使うので、そのたびに確認しながら進めていきたい。 ・グラフから数量の変化をとらえて式に表すことは、2つの数の対応関係や規則性に注目させながらとらえられるようにしていきたい。

宇都宮市立豊郷中央小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	64.4	59.0	58.3
	生命・地球	58.7	56.8	56.1
観点	科学的な思考・表現	57.2	52.5	51.4
	観察・実験の技能	57.2	57.6	57.0
	自然事象についての知識・理解	65.0	61.0	60.6



★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	○領域の平均正答率は64.4%で、県平均より約6ポイント、市平均より約5ポイント高い。 ○空気や金属は温めると体積が増加することをもとに問題に答える設問では、市・県の正答率より10%以上上回っている。 ○水や空気の温まり方やそれをもとに問題に答える設問では、市・県の正答率より10%以上、上回っている。 ○水が氷になる時の温度変化や水は沸騰すると水蒸気になるという設問では、市・県の正答率より10%以上上回っている。 ●水が氷になったときの体積の変化を問う設問では、市・県の正答率より5%程下回っている。	・日常生活の事象と関連付けて予想を立てることを重視し、科学的な物の見方を高めていくようにする。 ・実験を伴う学習では、予想、実験、結果の考察という過程を経て、自然事象に対する科学的な考え方を養うよう、今後も指導していく。 ・関連する既習事項について復習するとともに、体系的な学習をさらに充実させて基礎的な事項の習熟を図る。
生命・地球	○領域の平均正答率は58.7%で、県・市の平均より2ポイント程高い。 ○グラフから、気温とヘチマの茎の伸びとの関係を説明する設問では、市・県の正答率より8%程上回っている。 ○水は熱しなくても蒸発して空中に出ていくことを問う設問では、市・県の正答率より10%以上、上回っている。 ○星座早見の持ち方や使い方についての設問では、市・県の正答率より10%以上、上回っている。 ●日なたに置いたピーカーのふたの内側に水滴がついた理由を説明する設問の正答率は、市・県より3%程上回っているが、11.3%と低い値を示した。 ●方位磁針の正しい使い方についての設問の正答率は、市・県より10%近く下回っている。	・「人の体のつくりと運動」では模型や視聴覚教材を活用し、具体的なイメージをつかませながら学習内容の定着を図っていく。 ・「月と星」では、月と星の観察を継続して行うよう支援し、形や位置の変化を実際の目でとらえ、認識できるようにしていく。 ・「天気のようにす」では、一月の気温の変化や水の蒸発について、もう一度、復習をしながら学習内容の定着を図っていく。 ・自然環境豊かな地域性を生かし、身の回りの自然に目を向けさせたり、変化を捉えさせたりしながら、自然事象への興味・関心をさらに高めていく。

宇都宮市立豊郷中央小学校 第5学年児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「授業では、授業の目標が示されている」という質問に対して、93%以上の児童が肯定的な回答をしている。また、「授業では、最後に学習したことをふり返る活動をよく行っている」という質問に対しても73%以上の児童が肯定的な回答をしている。さらに、「授業を集中して受けている」という児童も93%以上いる。目標をもって授業に臨み、集中して取り組み、成果をふり返るという基本的な学習態度が身に付いていると言える。また、「家で学校の宿題をしている」という質問に対しては100%、「学校の宿題は自分のためになっている」という質問に対しては97%と学校と家庭の連携が図られていることがうかがえる。

○「人と話すことは楽しい」が95%、「だれに対しても、思いやりの心をもってせつしている」が86%、「自分のよさを人のために生かしたいと思う」が89%と、児童は上手にコミュニケーションをしようという気持ちを持っていることが分かる。

○「毎日、朝食を食べている」が98%、「家の人と学校でのできごとについて話をしている」が88%と、県や市のもより高く、家庭の教育への関心の高さが見受けられる。今後も家庭と協力して、児童のよりよい成長のために努力していきたい。

●「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」が53%、「友達の前で自分の考えや意見を発表することはとく意だ」が33%という結果から、気持ちはもっていながらも言葉で伝え合うコミュニケーション力は低いことが分かる。

●「本やインターネットをり用して勉強に関する情報を得ている」は県・市と同率だが、50%と低い。また、「見てはいけないサイトにつながらないようにしているか」も県・市と同率だが40%と低い。今後も、家庭の協力を仰ぎながら正しい情報の活用の仕方について指導していきたい。

●「家で学校の授業の予習をしている」が48%、「漢字の読み方や言葉の意味がわからないことは辞書を使って調べている」が58%と、自学自習は身に付いていないことがうかがえる。懇談会や学年便りで家庭に連絡し連携を図りたい。